

2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月12日

上場会社名 インパクトホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6067 URL <https://impact-h.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福井 康夫  
 問合せ先責任者 (役職名) プライム準備室長 (氏名) 佐藤 圭介 (TEL) 03(5464)8321  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 2022年9月12日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 ( 機関投資家・アナリスト向け )  
 (百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第2四半期の連結業績(2022年1月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	6,963	16.5	865	26.8	859	27.9	573	29.9
2021年12月期第2四半期	5,976	30.0	682	116.1	672	373.0	441	558.0

(注) 包括利益 2022年12月期第2四半期 567百万円( 28.7%) 2021年12月期第2四半期 440百万円( -%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	86.88	85.46
2021年12月期第2四半期	67.68	67.51

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第2四半期	8,768	4,603	52.4
2021年12月期	8,902	4,071	45.6

(参考) 自己資本 2022年12月期第2四半期 4,600百万円 2021年12月期 4,067百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	10.00			
2022年12月期(予想)			—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,000	20.0	2,200	31.1	2,000	21.3	1,400	15.8	210.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年12月期 2 Q	6,702,694株	2021年12月期	6,695,194株
2022年12月期 2 Q	117,609株	2021年12月期	100,482株
2022年12月期 2 Q	6,596,038株	2021年12月期 2 Q	6,515,632株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 経営成績に関する説明	4
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(会計方針の変更)	13
(セグメント情報等)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化に向けた動きが進みました。一方、長期化するウクライナ情勢や円安による物価上昇・原材料価格の高騰など、経済の下振れリスクを残し、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く市場環境においては、リアル店舗（市中にある小売店舗）が依然としてオーバーストア状態にあり、どこの店でも同じような商品が同じような価格で手に入るため、プロモーション力や接客サービスの質の差により、『売れる店舗』と『売れない店舗』が明確に区別できる状況となっています。そのため、消費財メーカーからは『売れる店舗』に効率良く販促予算を投下したいというニーズが高まっております。

また最近、EC（インターネット上の仮想店舗）での購入が、耐久消費財やアパレルを中心に以前より盛んになっておりますが、消費者行動としてECは主にリピート購入時に利用し、新商品購入時・ブランドスイッチ時は依然としてリアル店舗で購入というような流れが常態化しつつあります。

このような経済環境の中、当社グループは「社会性ある事業の創造」という経営理念のもと、「売場を元気に、日本を元気に、そして世界を元気に！」という事業コンセプトを掲げ、HR（Human Resources）ソリューション・IoT（Internet of Things）ソリューション・MR（Marketing Research）ソリューションの3セグメント構成で店頭販促支援事業を展開しております。

加えて昨今、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）への関心の高まりから、地球における有限な環境の中で環境負荷を最小限にとどめ、資源の循環を図り、環境と経済、社会の統合的な向上を目指すための取り組みが求められており、当社グループとしては環境保全と経済活動を両立させるため、当社グループが展開する店頭販促支援事業でも販促の効率化、ムダの削減を追求し、企業のESG経営・SDGsに貢献する「SDGs販促」を推進しております。

更に、海外での新規ビジネス創出の一環であるインドでのコンビニエンスストア事業を展開していくことで、更なる企業価値の向上に努めております。

以下、具体的にセグメント別経営状況について説明いたします。

#### （HRソリューション事業）

HRソリューション事業では、消費財メーカー向けにラウンダー（店頭へのルート営業代行業務）や、それに伴う販促物・ノベルティ・什器製作をはじめとしたフィールド（店頭）業務を年間100万件超という国内最大級の規模で実施しております。当社グループが創業期よりサービスを提供してきたラウンダー、推奨販売、覆面調査、デジタルサイネージなど、数々のフィールド業務を通じて、独自に蓄積してきたリアル店舗の売場・販促活動に関するデータベース（以下、「店舗DB」といいます。）を活用し、効率的かつ効果的な店頭販促企画提案による新たな付加価値の提供を加速させております。

当第2四半期連結累計期間においては、ラウンダーサービスや販促ツール製作は、前期から本格的に展開をしている店舗DBを軸にした販促施策提案により、サービスとしての付加価値が高まったことで大型案件の新規受注や収益性は着実に向上しており、コロナ禍でも事業基盤を拡大しております。

試食・試飲販売は、依然として厳しい状況が続いておりますが、代替え施策として商品サンプリングや店頭イベントなどの受注増加により、事業単体での営業黒字を継続しております。

また、コールセンターやBPO、デバッグサービスを展開するジェイエムエス・ユナイテッド株式会社および人材派遣・紹介サービスを展開するジェイ・ネクスト株式会社における買収後の当社グループ内への経営統合・業務統合・意識統合の継続的な取り組みにより、営業面・業務面でのグループ内シナジー効果が更に高まったことで収益性が向上しました。その結果、セグメント全体としては売上高・営業利益とも増加しました。

この結果、売上高は4,793,584千円（前年同期比17.9%増）、セグメント利益は626,963千円（同47.0%増）となりました。

#### （IoTソリューション事業）

IoTソリューション事業では、消費財メーカーをはじめ飲食・小売・サービス業向けに小型デジタルサイネージを年間約26万台提供しており、高付加価値商材であるPISTA（フィールド・トラッキング・ソリューション）をロー

ンチしたことで、オンライン化によるコンテンツ自動更新や人感センサー・顔認識エンジンを活用した店頭棚前顧客情報取得の流れを加速させております。これによりデジタルサイネージ本体の端末販売だけでなく、オンラインASPサービス利用料などの継続的な収益が見込めるストック型ビジネスの構築も推進しております。

当第2四半期連結累計期間においては、HRソリューション事業同様、店舗DBを活用することで製品の付加価値を高め、昨今の半導体部材高の影響は製品への価格転嫁で吸収しました。

また、エレベーター内・美容室座席前などを広告媒体とする広告事業者向けにカスタマイズしたオンラインサイネージシステムや飲食チェーン向けDX推進の一環として開始したテーブルトップオーダー（※）端末、大型サイネージなどの高単価端末の出荷増もあり売上高は増加しましたが、前期下期に受注していた一部特機（顧客の要望に応じてオリジナルで製造する端末）案件で、直近の急速な円安の進展による為替変動が営業利益に影響しました。

この結果、売上高は1,573,154千円（前年同期比9.3%増）、セグメント利益は325,222千円（同20.2%減）となりました。

（※）テーブルトップオーダーとは、主に飲食店などにおいて利用者自身がタッチパネル端末などを介して注文したい料理をオーダーするシステムのことで、

#### （MRソリューション事業）

MRソリューション事業では、消費財メーカーをはじめ学術機関・飲食・小売・サービス業向けに総合マーケティングリサーチサービスを年間約30万件提供しております。主に、現場スタッフのCS（顧客満足度）・ES（従業員満足度）向上を目的とする覆面調査、店頭オペレーション改善などのための研修プログラム、内部監査代行としてのコンプライアンス調査、商品開発を目的としたホームユーステストなど、顧客の課題抽出から課題解決までを網羅するリサーチメニューの展開を推進しております。

当第2四半期連結累計期間においては、コロナ禍で覆面調査の主要顧客層が入れ替わったことで収益性が改善、特に物販・サービス業向けの内部監査代行やコンプライアンス調査が成長しました。また、ホームユーステストの受注積み上げや前期下期から受託している世論調査の継続受注により、売上高・営業利益とも増加しました。

この結果、売上高は661,863千円（前年同期比27.9%増）、セグメント利益は176,093千円（同82.3%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は6,963,110千円（前年同期比16.5%増）、営業利益は865,553千円（同26.8%増）、経常利益は859,703千円（同27.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は573,076千円（同29.9%増）となりました。

セグメント別の業績は次の通りであります。

	売上高（千円）	前期比(%)	営業利益（千円）	前期比(%)
HRソリューション事業	4,793,584千円	17.9	626,963千円	47.0
IoTソリューション事業	1,573,154千円	9.3	325,222千円	△20.2
MRソリューション事業	661,863千円	27.9	176,093千円	82.3

## （2）財政状態に関する説明

### ①財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して133,968千円減少し、8,768,911千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して3,554千円増加し、7,534,879千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が93,070千円、商品及び製品が150,829千円増加した一方で、現金及び預金が182,744千円、その他流動資産が66,442千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して137,522千円減少し、1,234,032千円となりました。これは主に、除却および償却による有形固定資産の減少が62,495千円、償却によるのれんの減少が15,931千円およびその他投資等が85,627千円減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して666,624千円減少し、4,165,135千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して165,646千円減少し、2,188,860千円となりました。これは主に、未払法

人税等が99,160千円、その他流動負債が74,853千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して500,978千円減少し、1,976,275千円となりました。これは主に、長期借入金が476,710千円減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して532,656千円増加し、4,603,776千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加573,077千円、自己株式の取得による減少50,054千円によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、3,865,482千円となりました。当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果増加した資金は、369,381千円であります。これは主に税金等調整前四半期純利益844,167千円、売上債権の増加額93,041千円、棚卸資産の増加額160,394千円、法人税等の支払額346,924千円によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果減少した資金は、25,316千円であります。これは主に有形固定資産の取得による支出14,403千円、無形固定資産の取得による支出60,233千円、保証金の回収による収入66,216千円、資産除去債務の履行による支出15,600千円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果減少した資金は、526,808千円であります。これは主に長期借入金の返済による支出490,929千円、自己株式の取得による支出50,053千円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期決算期における市場の動向および当社グループの業績は概ね計画通り推移しており、本年2月22日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

連結業績予想については、現時点において今期も引き続き新型コロナウイルスの感染拡大が収束しないという前提を置き、そのうえでセールスプロモーション事業における新規事業立ち上げ等による成長も見込んだうえで見積もっております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,048,226	3,865,482
受取手形及び売掛金(純額)	2,046,917	2,139,987
商品及び製品	544,970	695,799
仕掛品	44,656	53,497
その他(純額)	846,553	780,111
流動資産合計	7,531,325	7,534,879
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	178,978	141,279
機械装置及び運搬具	833,259	833,259
その他	272,446	292,335
減価償却累計額及び減損損失累計額	△970,296	△1,014,982
有形固定資産合計	314,387	251,892
無形固定資産		
のれん	213,718	197,787
その他	276,609	313,957
無形固定資産合計	490,328	511,744
投資その他の資産		
投資有価証券	110,838	101,820
関係会社株式	34,298	32,500
その他(純額)	421,701	336,074
投資その他の資産合計	566,838	470,395
固定資産合計	1,371,554	1,234,032
資産合計	8,902,879	8,768,911
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	170,462	203,189
1年内返済予定の長期借入金	944,086	929,867
未払法人税等	319,842	220,682
株主優待引当金	10,141	-
その他	909,974	835,121
流動負債合計	2,354,506	2,188,860
固定負債		
長期借入金	2,403,562	1,926,852
繰延税金負債	1,275	26
その他	72,415	49,396
固定負債合計	2,477,253	1,976,275
負債合計	4,831,759	4,165,135

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,818,121	1,825,806
資本剰余金	2,032,089	2,039,774
利益剰余金	412,501	985,578
自己株式	△90,482	△140,536
株主資本合計	4,172,229	4,710,622
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,454	△1,078
為替換算調整勘定	△108,878	△108,878
その他の包括利益累計額合計	△104,423	△109,957
新株予約権	3,314	3,110
非支配株主持分	-	-
純資産合計	4,071,120	4,603,776
負債純資産合計	8,902,879	8,768,911



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)
売上高	5,976,484	6,963,110
売上原価	3,951,707	4,697,003
売上総利益	2,024,777	2,266,107
販売費及び一般管理費	1,342,406	1,400,554
営業利益	682,370	865,553
営業外収益		
受取利息	53	49
受取配当金	899	3
助成金収入	3,869	3,000
為替差益	2,249	6,451
保険解約返戻金	2,066	-
その他	3,471	3,345
営業外収益合計	12,610	12,849
営業外費用		
支払利息	12,559	10,726
休業手当	6,952	3,937
持分法による投資損失	1,548	1,798
その他	1,891	2,237
営業外費用合計	22,951	18,699
経常利益	672,028	859,703
特別利益		
固定資産売却益	8,150	-
持分変動利益	12,969	-
資産除去債務戻入益	-	5,213
資産除去債務履行差額	-	5,025
特別利益合計	21,119	10,239
特別損失		
子会社清算損	9,512	-
固定資産除却損	-	20,575
投資有価証券評価損	-	1,000
資産除去債務履行差額	-	4,200
特別損失合計	9,512	25,775
税金等調整前四半期純利益	683,635	844,167
法人税、住民税及び事業税	204,681	251,237
法人税等調整額	39,263	19,853
法人税等合計	243,944	271,090
四半期純利益	439,691	573,076
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,327	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	441,019	573,076

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	439,691	573,076
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	828	△5,533
為替換算調整勘定	380	-
その他の包括利益合計	1,208	△5,533
四半期包括利益	440,899	567,543
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	442,227	567,543
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,327	-

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	683,635	844,167
減価償却費	74,830	89,665
のれん償却額	15,931	15,931
持分法による投資損益 (△は益)	△11,420	1,798
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△8,550	43
受取利息及び受取配当金	△953	△52
支払利息	12,559	10,726
売上債権の増減額 (△は増加)	365,939	△93,041
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△278,423	△160,394
前渡金の増減額 (△は増加)	△162,707	41,684
仕入債務の増減額 (△は減少)	△49,978	32,727
未払金の増減額 (△は減少)	△87,499	△34,760
未払費用の増減額 (△は減少)	△10,436	△46,277
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△182,363	△6,736
その他	△34,669	31,623
小計	325,893	727,103
利息及び配当金の受取額	953	41
利息の支払額	△12,654	△10,839
法人税等の支払額	△206,203	△346,924
営業活動によるキャッシュ・フロー	107,989	369,381
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△25,117	△14,403
有形固定資産の売却による収入	8,658	77
無形固定資産の取得による支出	△56,969	△60,233
保証金の回収による収入	2,959	66,216
保証金の差入による支出	△715	△309
資産除去債務の履行による支出	-	△15,600
その他	4,422	△1,065
投資活動によるキャッシュ・フロー	△66,763	△25,316

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△337,001	-
長期借入れによる収入	69,000	-
長期借入金の返済による支出	△545,968	△490,929
株式の発行による収入	49,317	15,337
自己株式の取得による支出	-	△50,053
配当金の支払額	△23	-
その他	△1,894	△1,162
財務活動によるキャッシュ・フロー	△766,569	△526,808
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,797	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△723,545	△182,743
現金及び現金同等物の期首残高	4,161,559	4,048,226
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,438,013	3,865,482

#### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98号に定める代替的な取扱いを適用し、製品の国内販売において、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

また「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載してありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	HRソリューション事業	IoTソリューション事業	MRソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,039,143	1,423,658	513,682	5,976,484	—	5,976,484
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25,273	14,868	3,625	43,767	△43,767	—
計	4,064,417	1,438,526	517,308	6,020,252	△43,767	5,976,484
セグメント利益	426,413	407,545	96,546	930,506	△248,136	682,370

(注) 1. セグメント利益の調整額△248,136千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	HRソリューション事業	IoTソリューション事業	MRソリューション事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	4,744,300	1,561,674	657,135	6,963,110	—	6,963,110
外部顧客への売上高	4,744,300	1,561,674	657,135	6,963,110	—	6,963,110
セグメント間の内部 売上高又は振替高	49,283	11,479	4,728	65,491	△65,491	—
計	4,793,584	1,573,154	661,863	7,028,602	△65,491	6,963,110
セグメント利益	626,963	325,222	176,093	1,128,279	△262,726	865,553

(注) 1. セグメント利益の調整額△262,726千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用しております。当該変更による売上高及びセグメント利益に与える影響はありません。